

Bamboo and Rattan Design Workshop in Indonesia

アジアに広がる竹の素材の可能性を探ることを目的に、本学の国際交流協定校であるインドネシアのバンドン工科大学と実施している10日間のワークショップです。

両校の学生がチームを組み、竹およびラタンを利用したデザインについて、現地の職人とともに研究・制作・展示を行います。

価値観の異なる文化的背景の中、両校の学生同士が素材を通して対話を重ね、コロナ禍の中断期間3年を経ながら現在まで12回実施してきました。

このプロジェクトをきっかけにバンドン工科大学の学生が来日し、東京の街に潜む価値を探るプロジェクト「Find a treasure in Tokyo」へとつながるなど新たな交流が生まれています。

- 竹・ラタンという素材を探る
- 現地の環境を体感し、双方の文化を学び合う
- 制作を通して竹の可能性を広げる



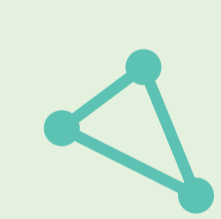
ワークショップ前半、竹・ラタンに触れる



bamboo domeをITBの学生と共に立ち上げる



職人から加工を学ぶ



連携先

バンドン工科大学



実施期間

2009年～

※2020年～2022年はコロナ禍のため中断

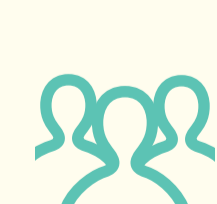


担当教員

伊藤真一（工芸工業デザイン）

板東孝明（基礎デザイン）

佐々木一晋（芸術文化）

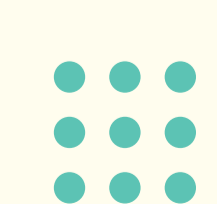


参加学生の学科

工芸工業デザイン学科

基礎デザイン学科

芸術文化学科を中心とした全学科



参加学生人数

各年度15人～28人